

献辞

国際文化学会会長 山 川 偉 也

藤澤教授は、1957年3月に京都大学文学部文学科（イタリア語学イタリア文学専攻）を御卒業、1962年3月に京都大学大学院文学研究科（言語学〔イタリア語学イタリア文学専攻〕）博士課程を了えられ、1967年4月に本学に就任されました。爾来、33年の長きにわたり、教育・研究・大学業務の三面にわたり、本学発展のため貴重な御尽力を頂いてまいりました。しかし、最近にいたって、お身体に不調をきたされ、このたび選択定年制により、まことに残念なことに、本年3月末日をもって退職されることとなりました。

教授は、在ローマ日本文化会館客員講師として1年間日本語講座を担当されたり、多年にわたり他大学等へ非常勤講師として出張されるようなこともあったものの、一貫して本学における一般教育、特にフランス語や文学の講義を担当され、教育上多大の寄与をされてきたわけではありますが、文学部が増設され、文学研究科が開設されて以降は、さらにイタリア語、イタリア研究演習、南欧文化研究講義、同演習等専門教育科目の授業運営にかかわって随分と力を尽くされ、多くの学部学生や院生を育ててこられました。

その間に、教授はまた、図書館長（1974年11月～1975年3月、1986年4月～1988年3月、1992年4月～1994年3月の各期間）、一般教育委員長（1976年4月～1977年3月および1980年4月～1982年3月の各期間）、桃山学院大学中・長期計画委員会委員長（『新学部設置に関する答申』1984年1月として結実）、桃山学院大学国際センター設置準備委員会委員長（『国際センター設置に関する答申』1985年6月として結実）、国際センター長（1996年4月

～1997年3月)等の要職を歴任され、一般教育カリキュラムの整備や入試改革の推進、総合研究所の組織化や国際交流の充実に取り組まれるとともに、図書館の整備充実や学院将来計画の策定等についても、滅しがたい大きな成果を挙げてられました。

その傍らでは、研究の方面でも業績を次々と挙げられ、著書『イタリア・マルクス主義研究』(現代の理論社1976年9月)、翻訳書I.モンタネッリ『ローマの歴史』(中央公論社1979年1月)、著書『アントニオ・グラムシ』(すくらむ社1979年5月)、著書『ファシズムの誕生』(中央公論社1987年12月)、著書『物語イタリアの歴史』(中央公論社1991年10月)、翻訳・編集・監修『マキアヴェッリ全集』筑摩書房(1998年10月第1巻刊行、全6巻で2000年3月まで)等を上梓なさっております。

顧みれば、本学のために尽くされたその功績は大であります。国際文化学会はこれを賛え、『国際文化論集』本号を「藤澤道郎教授退任記念号」と銘打って刊行し、教授にこれを献呈いたします。御清栄の糧ともしていただきますように。

2000年1月末日